

市政出前トーク

市政出前トークとは、市政に関する理解を深めると共に、これからのまちづくりについて考えるきっかけとするために総合企画局市民協働政策推進室が実施している事業です。平成21年度では、225のテーマが設けられ、市民からの要望に基づき担当の職員が職場や地域に出向き、そのテーマについて説明しています。

衛生動物部門では、「スズメバチに刺されないために」「衛生害虫の対策について」「セアカゴケグモについて」の三つのテーマを登録しています。いずれも市民生活に直結しているテーマです。

京都産業大学での市政出前トーク

平成21年8月25日に左京区で48人の方がキイロスズメバチに刺されるという事故があったためでしょう。今回、京都産業大学から「スズメバチに刺されないために」についての出前トークの依頼がありました。職員や害虫防除業者への研修会で度々ハチの話をしていることから同じパワーポイントのスライドを使用して行えばよいだろうと高をくくっていました。ところが、事前に学生さんから質問が送られてきました。その質問に答える形でパワーポイントのスライドを作成し直しました。

学生さんの質問から

「昨今の地球温暖化によってスズメバチの増加減少は起こっていますか」との質問に答えるために資料を作成していました。興味ある数字にぶつかりました。昭和48年度の京都市衛生局事業統計です。行政がスズメバチ駆除を始めた初期のころの「ハチ駆除処理件数」が掲載してあります。当時は、種類別に駆除件数が掲載されていました。具体的な駆除処理件数は、下の表のとおりでした。ところが、昭和54年にハチ駆除が行政から民間に委託されました。それ以降は、すべての種類のスズメバチを一括して駆除件数を上げています。ところがすべてのスズメバチの種類を一括して処理することは、行政上の問題はないにしても、生物の多い少ないを論じるためには、少し不適當です。そこで衛生公害研究所では、平成4年から平成17年に掛けて、京都市がハチ駆除を委託している業者から駆除されたハチのサンプルを譲り受け、種類を分けて記録することにしていました。平成17年では、衛生公害研究所が譲り受けたスズメバチ類のサンプルは115件で、種別の構成比は、オオスズメバチが10.4%、コガタスズメバチが56.6%、キイロスズメバチが23.5%及びその他のスズメバチが9.6%でした。この値を平成17年度のスズメバチの駆除件数に乗じると下の表のようになりました。昭和48年と平成17年の比較をしてみます。ミツバチの件数は、平成17年度が少ない結果でした。それに比較して、スズメバチ類は、すべて増加しています。特にコガタスズメバチは、

種 類	昭和48年度	平成17年度
ミツバチ	167件	128件
オオスズメバチ	2件	127件
キイロスズメバチ	157件	287件
コガタスズメバチ	8件	692件
その他のスズメバチ	0件	117件

表 ハチ駆除件数(平成17年度は推測値)

【音原ゼミ】『京都市市政出前トーク』でスズメバチを知る!!

音原ゼミでは、平成20年1月12日(火)2時開、演習1の授業内で「京都市市政出前トーク スズメバチに刺されないために」というテーマで、京都市衛生公害研究所 衛生動物部門研究員の犬西 修氏より興味深いレクチャーを受けた。

ハチなどの標本や、本物のスズメバチの巣を使って、スズメバチの種類とその特性、被害にあわないための対処方法などを詳細に解説していただいた。普段の授業で扱うことはできないが、身近で重要な自治体の仕事について知ることができた。

とても興味深い内容でした。

【学生の感想】

- 標本にあったオオスズメバチの大きさに度肝を抜かれました。こんなものが襲ってきたら、冷静に対応できないだろうと思いました。
- ハチの巣がある場所を知らずにハチの領域に入ってしまったら、絶対に走って逃げると思うのですが、それがダメだと知った。実際に入ってしまった時にちゃんと対処できるのかと思いました。
- スズメバチの巣は全部木とハチの唾液で作られており、触り心地も思っていたほど悪くなく、触ると本当に木の感触で驚きました。

セアカゴケグモとアルゼンチンアリの標本

キイロスズメバチの巣。どれも普段はお目にかけられないものばかりでした。

市政出前トークを掲載していただいた

京都産業大学のホームページ

http://www.kyoto-su.ac.jp/departement/ec/news/20100122_suga.html

86.5倍にもなっています。こうしたスズメバチ類の駆除件数が増えている傾向は、最近でも変わらず、特に平成20年と21年の駆除件数は1600件を超えています。

スズメバチ類、特にコガタスズメバチやオオスズメバチの駆除件数が増えている原因をこの資料だけで推測することはできませんが、スズメバチ類の生息環境に何かが起こっていることは確かでしょう。